

天神ノ元遺跡出土絵画甕棺

分野 歴史

地域 唐津

◎地図・写真・統計資料など



天神ノ元遺跡出土絵画甕棺

『佐賀県の文化財』より

■天神ノ元遺跡出土絵画甕棺（てんじんのもといせきしゅつどかいがかめかん）

天神ノ元遺跡は唐津市半田字天神ノ元に所在し、その西側には唐津湾に注ぐ半田川が流れる。

第2次調査では、弥生時代前期末から後期にかけての甕棺墓41基が出土しており、そのうち20号甕棺に絵画が描かれていた。

この甕棺は、合口甕棺だが、上甕は、身が大きく破壊されており、口縁部の一部のみ残存する。下甕は、口縁部が打ち欠かれた中型の甕棺で、上半部に絵画が線刻されている。

沈線によって区画された空間に、横を向いた鹿と鉤状の線刻がそれぞれひとつずつ描かれている。現存する区画は4つだが、7区画、存在していたと考えられる。

鹿は直線で表現された頭部と弧を描く胴部、胴部から直線的に延びる前足・後足からなる。いずれの鹿も角を持ち、牡鹿であることが分かる。

「J」状の形をした鉤状の線刻は、単独のものと対になるものが、それぞれの区画に描かれる。

20号甕棺は金海式とよばれる甕棺で、弥生時代前期末に位置付けられる。

甕棺に鹿を描いた例としては、県内初例であり、2頭の鹿を描いた福岡県吉武高木遺跡出土甕棺とともに国内最古段階の絵画土器のひとつである。

平成19年3月14日 県重要文化財（考古資料）指定

唐津市西城内1番1号（唐津市教育委員会）

◎引用・参考文献（出典）

◆『佐賀県の文化財』

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html